

2025年「重点指導事項」

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

近年、気候変動や少子化、働き方改革などにより、高校野球を取り巻く環境は大きく変化し、多くの課題が浮き彫りになっています。競技者数の減少や指導体制の変化が進む中で、高校野球が持つ「投げて、打って、走る」爽快感、チームで勝利を目指す情熱、そしてフェアプレーの精神は、次世代に受け継ぐべき重要な価値です。

2028年のロサンゼルスオリンピックでの野球復活は、競技の魅力を再び広く発信できる好機であり、高校野球の発展にも繋がるはずです。私たちは「野球の原点に立ち返り、未来を見据える」をテーマに、選手・指導者・審判が一丸となり、競技環境の整備に努めてまいります。

その実現のために、以下の重点指導事項に基づき、高校野球のさらなる発展に向けた取り組みを進めてまいります。

1. プレイ上について

(1) スピーディーな試合進行に努める

① スムーズな攻守交代

② 投手は打者を待たせない。打者は投手を待たせない。

規則 5.07 (c) (1) (2) の励行

(2) 投手が投げ手に息を吹きかける行為

(3) 不要なけん制（軸足を外すだけの行為含む）を多投する行為

(4) 走者の前に野手が立ち、視界を遮るアンフェアな行為

(5) 捕手がキャッチャースボックスから大きく身体を出して構える行為

2. マナーについて

(1) 選手やベースコーチ等がセルフジャッジをする行為

(2) 自チームを必要以上に鼓舞する（煽る）、過剰なガッツポーズ

(3) 勝利チームの校歌斉唱が終わったあと、相手チームに改めて「礼」をする行為

3. その他

(1) ユニフォームの着方について

① 帽子（頭に浅く乗せているような被り方・投球の度に脱げる投手）

② 上着（ベルトが見えずだぶついている）

③ ストッキング（ズボンの上に被せる着用）

④ ズボン（ストッキングの見え方が不揃い）

(2) 得点した走者やピンチを脱した際に、ベンチからの出迎えはしない

以上